

溝小だより

<https://mizonobe-kahoku.edumap.jp/>

河北町立溝延小学校

学校通信 No.362

2023.10.31

発行：校長 小林 聡

学校教育目標：ふるさとだいすき かしく つよく やさしく
～つながりの中で わたしたちが創る 楽しい学校～

つながりの中で 子どもたちが創る 溝小チャレンジ、大成功！

縦割り班の仲間と協力して6つのゲームを進めていく「溝小チャレンジ」は、前期縦割り班活動の集大成として位置付けた児童会活動です。下級生が安心して楽しめるように気を配り、声をかけるやさしい6年生。すべての班がにこやかで、本当に楽しそうでした。

計画委員会が、みんなの動きが一目でわかるようにと昨年までの各教室から体育館に場所を変え、みんなが楽しめるゲームへと2つの新種目を加え、5、6年生全員で実際に試しながら準備を進めてきました。6年教室では、「縦割り班の絆を深める」「児童会スローガン達成に向けて、みんなの声が響き合う楽しい溝小チャレンジにする」というねらいと自分の役目を確かめ合ってから体育館に移動しました。どの班も一層仲が良くなり、仲間とともに楽しさをたっぷり味わえたのは、目に見えないところでの気配りと大きな支えがあったからだと思います。気を配りながら、下級生とともに楽しむ上級生。一緒にいるのがうれしくて、上級生を慕う下級生。学年を超えて仲良くできるところが溝小の素晴らしいところだと改めて感じました。



「知らせたい！書いてみたい！」が 学びの原動力

第5回授業研究会 1学年 国語 くわしくかこう「知らせたいな 見せたいな」

生活科「秋さがし」（朝日少年自然の家）で捕まえたかなちょうくんと拾い集めたどんぐりなどをまずは絵に表し、それに言葉を書き加えながら、最後にくわしく文章を書くという学習です。担任の阿部教諭が一番大事にしたかったのは、知らせたい、書いてみたいという子どもの強い思いです。そして、それが学びを進める一番の原動力になりました。1年生の子どもたちは普段からよく話を聞き、よく考えていて、書く力もずいぶんついてきました。いろいろなことを思い出しながら楽しく学習に向かいつつも、考えがなかなか進まなくなった時は隣の友達におたずねし、新たなことに気づきながら学びを深めていきました。「（言葉が）増えた！」という声が聞かれ、子どもたちはこの時間も友達と学ぶ良さをたっぷり味わいました。下の作文は単元の最後に書いたものです。自然の中での発見や驚きが生き生きと描かれていて、書いた子の声が聞こえてきそうです。



くぬぎのみ
しぜんのにえて、くぬぎのみ
を見つけた。
くぬぎのみをはじめて見た
とき、がっこうのどんぐりが
たちがちがうので、びっくりし
ました。くぬぎのみは、まじい
です。
大きいのとちゅうぐうの
みがありました。きょうのほ
うしをかぶっているのもめ
ました。
いろは、上のほつがちゃいろ
で下のほつがきいろです。
くぬぎのおちは、やきいも
のときにつかうけどくぬぎの
みは、やきいもの火にいれると
ばくはつします。さわるこ、か
たかったです。うすのたべもの
だと、わかりました。



本校ホームページへ
こちらからどうぞ